公立世羅中央病院だより No.152

鼠径ヘルニアの治療

外科　　唐口　望実

鼠径ヘルニアとは鼠径部（足の付け根）に生じるヘルニアの総称で、一般的に“脱腸”といわれる男性に多い病気です。ヘルニアは体の組織や臓器が本来あるべき位置からはみ出した状態のことで、鼠径ヘルニアは腸や内臓脂肪などがヘルニア門といわれる腹壁の欠損部（穴）を通して飛び出してきます。立った時やおなかに力を入れると膨らんで、寝転ぶと引っ込むといった症状があり、場合によっては痛みなどの症状も認めます。症状が軽い場合には経過観察を行うこともありますが、約１％の確率で腸がヘルニア門にはまり込んで戻らなくなってしまいます（嵌頓）。こうなると、腸閉塞や腸壊死、腹膜炎といった恐ろしい病気につながる可能性があります。

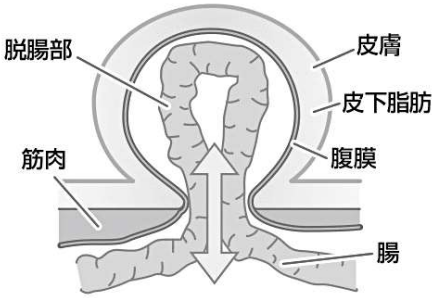
鼠径ヘルニアの根本的な治療は手術でヘルニア門を閉じるしかありません。手術の方法は以前から行われている前方アプローチ法と近年普及してきた腹腔鏡下手術の２種類があります。

①前方アプローチ法はヘルニア門の近くで約５㎝のキズで手術を行います。下半身麻酔あるいは局所麻酔で行うことが多く、皮膚を切ってヘルニア門を直接見て、メッシュ（人工シート）を固定します。メッシュは様々な種類がありますが、ヘルニア門の大きさや場所によって使い分けます。腹腔鏡下手術と比べてキズが大きくなることや手術部位の痛みを感じることがあるようです。

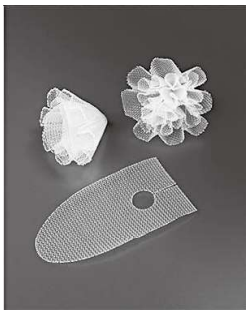
②腹腔鏡下手術は３ヶ所に小さなキズをつけて行います。全身麻酔を行い、おなかの内側からヘルニア門にメッシュを固定します。ヘルニア門や脱出していた腸や脂肪も確認でき、確実にヘルニア門を塞ぐことができます。ただ、おなかの中に手術器具を挿入するためおなかの中の臓器を損傷することや手術既往がある方は難しいことがあります。

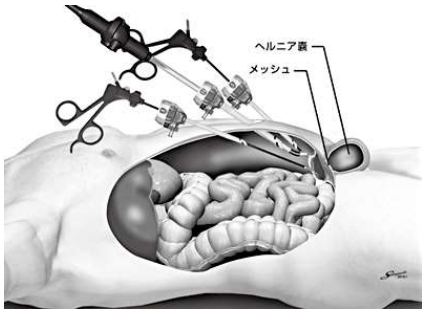
いずれの手術方法もヘルニア再発は２～３％程度で同じくらいの手術成績となります。

治療方法は各施設により方針に若干の違いがありますので、実際に受診された際には説明を聞いて自分に合った治療方法を選ぶ必要があります。



ヘルニア：
腸が出たり入ったりする。





右図：前方アプローチ法で用いるメッシュ。
左図：腹腔鏡下手術の時のイメージ図。

オンライン面会を行っています。
予約制となっておりますので御希望の方は
公立世羅中央病院　☎０８４７－２２－１１２７へお問合せください。